

ケータイ小説の書式が読みやすさと印象形成に及ぼす影響

國田祥子・中條和光

How does the format of the mobby novel influence the text comprehension?

Shoko Kunita and Kazumitsu Chujo

携帯電話のディスプレイ上で読まれている、いわゆるケータイ小説の書式は、改行が多く、センテンスが短めであるといった特徴があり、一般的な小説の書式と大きく異なっている。このような書式の特徴は、携帯電話のディスプレイで文章を読みやすくするために経験的に編み出されたと言われている。しかし、実際にその書式が読み手に対してどのような効果を持っているのかは調べられていない。本研究では、携帯電話のディスプレイと紙面において、ケータイ小説を模した書式(ケータイ書式)と一般的な書式(一般書式)で小説を呈示し、読み時間測定、読みやすさ評定、文章の印象評定を行った。その結果、携帯電話で読んだ場合はケータイ書式の方が読み時間が短く、読みやすいと評定されたが、紙面で読んだ場合は差が見られなかった。また印象評定の結果から、携帯電話で読んだ場合はケータイ書式の方がやわらかく積極的で活発、もしくは明るく派手な印象を与えるのに対し、紙面で読んだ場合はケータイ書式の方が消極的で静かで不活発で地味な印象を与えることが見いだされた。以上の結果から、ケータイ書式は携帯電話での文章呈示における工夫として有効であることが示された。

キーワード：携帯電話、書式、文章読解、ケータイ小説

少し前までは、小説は紙媒体で出版されるものであり、小説を読むという行為は紙に書かれた文章を読むことを指していた。しかし近年では、当初からインターネット上での公開という形で発表される小説も珍しくなくなり、パーソナルコンピュータや携帯電話で小説を読む、という行為も若者を中心として多く見られるようになった。中でも、携帯電話を主な媒体として発表され、読まれる小説は「ケータイ小説」と呼ばれ、従来の小説との様々な違いが話題とされてきた。

従来の小説とケータイ小説の違いは、そのジャンルや内容、ターゲットとする読者層など、様々な側面から論じられているが、最も目に付きやすく、また論じられることの多い違いは、その書式にあるだろう。ケータイ小説は、一般的に、改行が多用され、センテンスが短いなどの特徴があると言われている。しかし、従来の一般的な小説の書式とケータイ小説の書式が、実際にどの程度異なっているかを調べた研究は見あたらない。そこで本研究では、まず事前調査としてケータイ小説

の書式(ケータイ書式)と一般的な小説の書式(一般書式)の違いを数量化し、その違いを検討する。ケータイ書式と一般書式の違いを数量的に示すことによって、ケータイ小説で用いられている書式の特徴を、より具体的に捉えることができると考えられる。

また、こうしたケータイ書式の特徴は、どうして生まれたのだろうか。黒川(2008)によると、携帯電話の小さな画面では、一般的な小説のように長い文章は読みにくいため、読みやすくする工夫として、改行が多くセンテンスが短いというケータイ書式が生み出されたという。しかし、実際にケータイ書式にそのような効果があるかどうかは、これまで明らかにされていない。そこで本研究では、ケータイ書式で書かれた小説と一般書式で書かれた小説を、携帯電話のディスプレイと紙面で呈示し、その読みやすさや印象がどのように変化するかを調べることにする。実験1では、携帯電話を用い、携帯電話のディスプレイという表示媒体において、ケータイ書式と一般書式という書式の違いが、文章の読みやすさや印象に及ぼす影響を調べる。実験2では、ケータイ書式で書かれた小説と一般書式で書かれた小説を紙面に印刷し、紙媒体において書式の違いが文章の読みやすさや印象に及ぼす影響を検討する。

調査

実際に読まれているケータイ小説と一般的な小説を取り上げ、それらの書式をさまざまな観点から数量化し、比較した。一般的に言われていることが正しいならば、ケータイ書式は一般書式と比較して段落や空行の数が多く、文字数が少なくなると予測される。

方法

材料 ケータイ小説として、出版科学研究所(<http://www.ajpea.or.jp/>)調べの2006年1月～2008年1月までの月刊ベストセラーで20位以内に1度でもランクインし、かつ2008年5月7日時点でインターネット上で閲覧が可能なケータイ小説20作品のうち、筆者の重複がない13点を調査の対象とした。また一般的な小説として、文部科学省検定済の中学校2,3年の国語科教科書に掲載された作家が著した小説13点を調査の対象とした。なお、一般書式の調査には教科書の文章ではなく基本的に底本を用いた。最初の発表媒体が新聞などで底本が存在していない場合は、その作家の全集に収録されている文章を対象として用いた。それぞれの具体的な作品名をTable 1, Table 2に示す。

手続き 各小説の冒頭部分、中央部分、結末部分から、それぞれ400字詰め原稿用紙換算で2枚分、計6枚分の文章を、各小説の書式のままで抜粋し、原稿用紙に割り付けた。その上で、書式の特徴を数量化するため、金・樺島・村上(1993)を参考に、段落、かぎ括弧、句読点、空行、文字数を計測した。

結果・考察

調査対象とした箇所段落、かぎ括弧、句点、読点、空行の総数および総文字数について、ケータイ書式と一般書式の平均値を作品ごとに算出した(Table 3)。t検定を行ったところ、全ての項目において、ケータイ書式と一般書式の差が5%水準で有意であった。段落数および空行数についてはケータイ書式、それ以外に関しては一般書式の方が多くなっていた。

Table 1

調査の対象としたケータイ小説

著者名	著作名	URL
Chaco	空	http://ip.tosp.co.jp/Portal/i.asp?l=BOK0021&P=1
十和	クリアネス	http://no-ichigo.jp/read/book/book_id/219907
ハル	純愛	http://tosp.co.jp/BK/TosBK100.asp?l=nana_0319&BookId=3
陽未	プリンセス	http://ip.tosp.co.jp/BK/TosBK100.asp?l=himi_17&BookId=10
べあ姫	光 teddybear(2)	http://ip.tosp.co.jp/BK/TosBK100.asp?l=2teddybears&BookId=3
美嘉	君空	http://tosp.co.jp/BK/TosBK100.asp?l=kimizora_book&BookId=1
メグミ	心の鍵(上・下)	http://tosp.co.jp/BK/TosBS100.asp?l=megu_style
百音	永遠の夢	http://ip.tosp.co.jp/BK/TosBK100.asp?i=princess_mone&BookId=2
ゆき	この涙が枯れるまで	http://no-ichigo.jp/read/book/book_id/49026
凜	今でもキミを。	http://ip.tosp.co.jp/BK/TosBK100.asp?l=rinno_shousetu&P=0
流奈	星空	http://ip.tosp.co.jp/Portal/c.asp?i=HOS00TS03&Dp=17
reY	白いジャージ 先生と私	http://no-ichigo.jp/read/book/book_id/1628
れい	大好きやったんやで(上・下)	http://tosp.co.jp/BK/TosBK100.asp?l=rei1002sayaka&BookId=1

Table 2

調査の対象とした一般的な小説

著者名	著作名	出版社	刊行年
芥川龍之介	河童	岩波書店	2003
太宰治	走れメロス	岩波書店	1968
今江祥智	あのこ	理論社	1985
伊集院静	機関車先生	集英社	2003
三田誠広	僕って何	角川書店	1988
三浦哲郎	白夜を旅する人々	新潮社	1984
宮沢賢治	耕転部の時計	岩崎書店	1979
森絵都	永遠の出口	集英社	2003
村上春樹	海の向こうで戦争が始まる	講談社	1977
中沢けい	海を感じる時	講談社	1995
野崎六助	給食ファクトリー	日本放送出版協会	1998
笹山久三	幼年記 かがやく大気の中で	農山漁村文化協会	1992
安岡章太郎	ソウタと犬と	講談社	1988

ケータイ書式と一般書式の特徴を調べた結果、ケータイ書式では、一般書式と比較して文字数がかなり少なくなっていた。その一方で、ケータイ書式では一般書式よりも段落数および空行数が多くなっていた。これらのことから、改行が多く、センテンスが短いというケータイ小説の文体の特徴を計量的に確認できたと言えるだろう。

また、ケータイ書式において、かぎ括弧および句読点が一般書式よりも少なくなっていた。このような差が見られたのは、ケータイ書式の方が一般書式よりも大幅に文字数が少なく、このため、相対的にかぎ括弧や句読点の数が減少したものと考えられる。ただし句読点については、ケータイ書式においては句読点の代わりに改行や空行の挿入によって文章の区切りを示す場合もあり、そういった文体の特徴がさらに差を広げた可能性もある。この点については、今後、ケータイ小説におけるレトリックとしての改行や空行の用法を調べることで明らかにできるだろう。

Table 3
ケータイ書式と一般書式の差

	ケータイ書式 平均(SD)	一般書式 平均(SD)	t 値
段落数	36.62(8.85)	16.85(6.19)	6.58*
かぎ括弧数	7.35(4.34)	13.73(6.39)	2.98*
句点数	24.38(13.66)	56.31(11.80)	6.38*
読点数	15.46(18.31)	61.77(24.55)	5.45*
空行数	61.38(24.49)	1.38(2.18)	10.93*
文字数	575.38(341.20)	1676.15(276.96)	9.03*

実験 1

調査で明らかとなったケータイ書式の特徴は、表示装置として携帯電話のディスプレイを用いる際に、読みやすくする工夫として生まれたものであると言われている。そこで実験 1 では、ケータイ書式と一般書式で小説を携帯電話で呈示し、読みやすさと印象の違いを検討する。もしもケータイ書式に効果があるのなら、携帯電話で読む場合には、一般書式よりもケータイ書式の方が読みやすく、読み手にポジティブな印象を与えることが予測される。

方法

実験参加者 携帯電話のディスプレイに表示された文章の読解に支障の無い視力を備えた、大学生 56 名を参加者とした。

刺激 夏目漱石著「明暗」「道草」の中間部から、400 字詰め原稿用紙 3 枚分を抜粋し、一般書式の刺激材料とした。また、調査の結果に基づいて「明暗」「道草」を以下の要領で改編し、ケータイ書式の刺激材料を作成した。まず、元の文章を 1 つの句点ごとに改行し、さらに 1 行の空行を設けた。ただし、かぎ括弧内の句点の後は改行のみにとどめ、空行は入れなかった。また、読点と文章が一区切りついた部分に改行を入れた。かぎ括弧の前後には 2 行の空行を入れたが、かぎ括弧が連続している場合は空行を 1 行とした。さらに、かぎ括弧の種類を話者によって変更した。

以下に両者が携帯電話に表示された様子を模式図で示す(Figure1)。

器具 Sony Ericsson 製 W43S を使用した。ディスプレイサイズは約 35mm×50mm、表示フォントは MS ゴシックで文字サイズは約 2.2mm×2.2mm、表示文字数は 15 字×18 行であった。

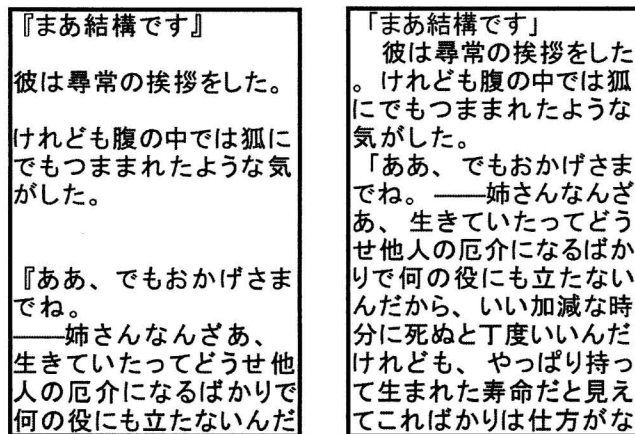


Figure 1. ケータイ書式(左)と一般書式(右)の模式図

手続き 参加者の半数には「明暗」を一般書式、「道草」をケータイ書式で読ませ、残りの半数には「明暗」をケータイ書式、「道草」を一般書式で読ませた。材料の呈示順はランダムとした。読み始める前に、後で理解度テストをするため内容を理解しながら読むよう教示した。それぞれの文章の読み時間をストップウォッチで計測し、両方の文章を読み終えた後、それぞれの文章について理解度テスト、印象評定、読みやすさ評定を行わせた。印象評定としては、井上・小林(1985)を参考に、19組の形容詞対に対する5段階評定を行わせた。読みやすさ評定では、いずれの文章が読みやすかったかを強制選択させた。なお、理解度テストは文章を集中して読ませるためのものであり、全て空欄でなければ内容理解に問題はないと判断した。

結果・考察

読み時間・読みやすさ評定 平均読み時間は明暗一般書式が 167.5 秒(SD=46.8)、明暗ケータイ書式が 150.4 秒(SD=29.5)、道草一般書式が 173.1 秒(SD=42.3)、道草ケータイ書式が 172.9 秒(SD=55.0)であった。平均+2SD よりも長かったか、もしくは平均-2SD よりも短かった5つのデータを外れ値として除外し、作品ごとに一般書式とケータイ書式の平均反応時間を比較して t 検定を行った。その結果、明暗で有意傾向が得られた($t(50)=1.70, p<.10$)。また、どちらの書式が読みやすかったかについて、回答のあった51名の人数比を調べたところ、ケータイ書式が37名、一般書式が14名であり、二項検定で有意差が得られた($p<.05$)。

以上の結果から、携帯電話で小説を読む際、主観的な評価においてはケータイ書式の方が読みやすくなることが示され、読み時間という客観的指標においてもケータイ書式の方が読みやすくなる傾向が示された。このことから、ケータイ書式を用いることは、携帯電話のディスプレイのような小さな画面で文章を読む場合、読みやすさを高める上で有効であったと言える。これは、ケータイ書式が、携帯電話のディスプレイという表示装置の制約の中で、文章を読みやすくする工夫として生まれたものである可能性を示唆する結果であると言えるだろう。

印象評定 書式と印象評定の関係をプロフィールで示した(Figure2)。それぞれの形容詞対の平均評定値について t 検定を行ったところ、明暗ではやわらかい-かたい、積極的な-消極的なにおい

て有意差が($t(54)=2.07, p<.05, t(54)=2.07, p<.05$), 活発な—不活発なにおいて有意傾向が見られた($t(54)=1.80, p<.10$)。また道草では明るい—暗い, 派手な—地味なにおいて有意差が見られた($t(54)=2.24, p<.05, t(54)=2.09, p<.05$)。

このことから, 携帯電話で読む場合, ケータイ書式で書かれた小説は一般書式の小説よりも積極的に活発でやわらかい, もしくは派手で明るいといった印象を読み手に与えることが示された。

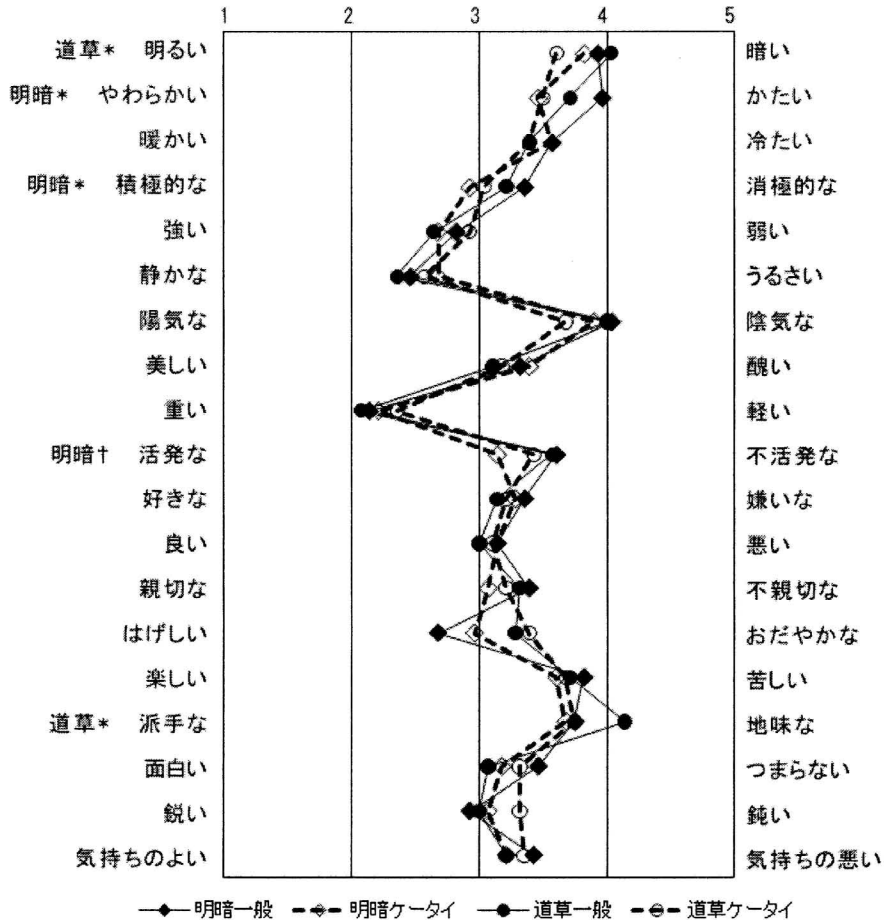


Figure 2. 携帯電話で呈示される書式が文章の印象形成に与える影響
($df=54, * : p<.05, † : p<.10$)

実験 2

実験 1 の結果から, 携帯電話のディスプレイで読む場合, ケータイ書式で書かれた小説は一般書式で書かれた小説よりも読みやすく, ポジティブな印象を与えることが示唆された。しかしこの結果からは, ケータイ書式の効果が携帯電話のディスプレイという表示媒体に特有のものであるかどうかは分からない。そこで実験 2 では, ケータイ書式と一般書式の文章を紙面に印刷してその読みやすさと印象を比較し, ケータイ書式の効果が表示メディアに特有のものなのか否かを検討する。

方法

実験参加者 正常な視力を持つ大学生 40 名を参加者とした。

刺激 実験 1 と同様の刺激を、A4 サイズ(364mm×257mm)の紙面に印刷して用いた。表示フォントは MS ゴシックで、文字サイズは 10.5pt(約 5mm×約 7mm)、表示文字数は 25 文字×32 行であった。

手続き 実験 1 とほぼ同様であった。ただし、実験 1 では理解度テスト、印象評定、読みやすさ評定を 2 つの文章を読み終わった後にまとめて行ったが、実験 2 では各文章を読み終わるごとに実施することとした。

結果・考察

読み時間・読みやすさ評定 平均読み時間は明暗一般書式が 149.2 秒(SD=53.3)、明暗ケータイ書式が 150.2 秒(SD=31.1)、道草一般書式が 165.7 秒(SD=46.6)、道草ケータイ書式が 159.7 秒(SD=50.0)であった。平均+2SD よりも長かったか、もしくは平均-2SD よりも短かった 3 つのデータを外れ値として除外し、作品ごとに一般書式とケータイ書式の平均反応時間を比較して *t* 検定を行ったが、いずれにおいても読み時間に差は見られなかった。

また、どちらの書式が読みやすかったかについての人数比は、ケータイ書式が 16 名、一般書式が 24 名であり、二項検定の結果、差は見られなかった。

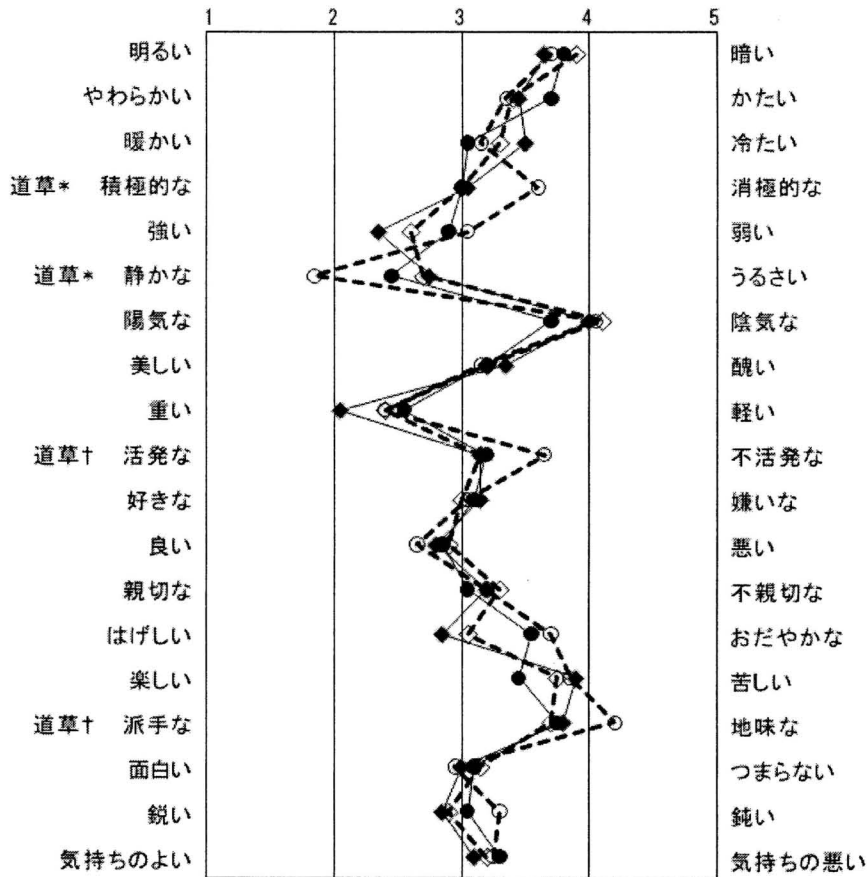
以上の結果から、紙面に印刷された小説を読む際には、主観的な評価においても読み時間という客観的指標においても、ケータイ書式の効果は得られなかった。このことから、ケータイ書式の持つ読みやすさに対する効果は、携帯電話のディスプレイという表示媒体に特有のものであったと言えるだろう。

印象評定 書式と印象評定の関係をプロフィールで示した(Figure3)。それぞれの形容詞対の平均評定値について *t* 検定を行ったところ、道草において積極的な-消極的な、静かな-うるさいに有意差が($t(38)=-2.18, p<.05, d(38)=2.08, p<.05$)、活発な-不活発な、派手な-地味なに有意傾向が見られた($t(38)=-1.80, p<.10, d(38)=-2.02, p<.10$)。

このことから、紙面に印刷された小説を読む場合、ケータイ書式で書かれた小説は一般書式の小説よりも消極的で静かで不活発で地味な印象を読み手に与えることが示された。

総合考察

本研究は、ケータイ小説の書式が、従来の一般的な小説の書式とどのように異なっているのかを計量的指標によって確認し、ケータイ書式がどのような効果を持っているのかを検討することを目的として行った。黒川(2008)によると、携帯電話の小さな画面では、一般的な小説のように長い文章は読みにくいと、読みやすくする工夫として、改行が多くセンテンスが短いというケータイ書式が生み出されたという。もしも黒川(2008)の主張が正しいならば、ケータイ書式で書かれた小説は一般書式で書かれた小説よりも、携帯電話を使って読む際、読みやすく感じられるはずである。また、ケータイ書式が携帯電話のディスプレイという制約された表示領域のもとで小説を読みやすくするために生み出されたものであるならば、通常の紙面のように、表示領域に制約の無い状況で



●— 明暗一般 ◆- - 明暗ケータイ ●— 道草一般 ▲- - 道草ケータイ
 Figure 3. 紙面で呈示される書式が文章の印象形成に与える影響

(df=38, * : $p < .05$, † : $p < .10$)

読むときよりも携帯電話で読むときにこそ、より効果的に働くはずである。

実験の事前調査として、ケータイ書式と一般書式の数量的な違いを調べた結果、ケータイ書式は一般書式と比較して文字数が少なく、改行・空行の数が多いという結果が得られた。このことから、ケータイ書式は改行が多くセンテンスが短いことが、計量的指標から確認された。次に、実験 1、実験 2 でケータイ書式と一般書式の読み時間、読みやすさ評定値を比較した結果、携帯電話で読む際には、ケータイ書式の方が一般書式よりも読み時間が短く、読みやすいと評定されたが、紙媒体で読む際には、読み時間、読みやすさ評定値とも、ケータイ書式と一般書式で差が見られなかった。また、文章の与える印象をケータイ書式と一般書式と比較した結果、携帯電話で読む際には、ケータイ書式の方が積極的で活発でやわらかい、もしくは派手で明るいといったポジティブな印象を与えるのに対し、紙媒体で読む際には、ケータイ書式の方が消極的で静かで不活発で地味といったネガティブな印象を与えることが示された。

これらの結果から、改行が多くセンテンスが短いケータイ書式は、携帯電話で小説を読む際、読

みやすく、ポジティブな印象を与える効果があり、携帯電話のディスプレイという小さな画面で文章を読みやすくする工夫として有効であると言えるだろう。また、そのような効果は紙媒体では見られず、印象に関してはむしろネガティブなものになったことから、ケータイ書式の効果は携帯電話のディスプレイという表示媒体に特有のものであると考えられる。

今回は、携帯電話と紙媒体を用いて書式の効果を検討した。しかし最近では携帯ゲーム機や電子書籍リーダーなど、文章を読むためのメディアは紙媒体を離れ、携帯電話以外の電子機器にも広がってきている。携帯用ゲーム機で読める文学小説を収めたソフトや、電子書籍を表示するための電子機器が次々と販売され、韓国では 2011 年から、小・中・高校で全ての教科書を電子書籍で提供する「電子教科書」を導入する見通しであるという(産経ニュース, 2010)。電子機器のディスプレイの多くは、携帯電話ほどではないにせよ、小さなものであり、読み手は小さな画面に呈示された文章を読むことになる。携帯電話で小説を読む際、一般書式がケータイ書式よりも読みにくく、またネガティブな印象を与えていたことから、同様に小さな画面で表示される電子書籍においても、書式が読みやすさや印象に影響を及ぼす可能性がある。だが現時点では、電子書籍で用いられている書式の大半は一般書式であり、携帯ゲーム機や電子書籍リーダーでの文章の読みやすさや印象に、書式が及ぼす影響について調べた研究は見あたらない。この点について、今後検討する必要があると考えられる。

また今回の研究では、書式による読みやすさ、印象の違いのみを検討したが、読みやすさや印象が異なれば、文章の記憶や理解度にも差が出てくる可能性がある。今後、教育場面での電子書籍の利用が増えていくと考えられる中で、このことについても十分に検討していく必要があるだろう。

引用文献

- 井上正明・小林利宣 (1985). 日本における SD 法による研究分野とその形容詞対尺度構成の外観, 教育心理学研究, 33, 253-260.
- 黒川祐二(編) (2008). 別冊ジュノン—超入門! ケータイ小説の書き方 株式会社主婦と生活社.
- 産経ニュース (2010). 20××年…紙はなくなる? 電子書籍市場が熱い韓国—政府も支援 産経ニュース 2010年2月10日 <<http://sankei.jp/msn.com/economy/finance/100201/fnc1002011906015-n1.htm>> (2010年3月1日)